

聖書:ルカの福音書22章47～62節

説教:主は振り向いて見つめられた

はじめに

いつものように前回のおさらいをしてから今日の箇所に入ります。弟子たちが過越の食事の席でだれが一番偉いかと騒ぎ立てていると、ペテロが「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております」と誓います。そうしてからイエスはゲッセマネの園に向かい、そこで血のような汗を流しながら、悪魔の誘惑と戦い、ご自分の思いを捨てて父なる神のみこころだけになるようにと祈る。そんな苦しみを味わっていたイエスをよそに弟子たちは眠り込んでしまった。それが前回までのあらすじです。

そこで今日の箇所が続くわけですが、ここでは三つのポイントに絞って考えていきます。一つ目。なぜユダはイエスを裏切ったのか。二つ目。ペテロがイエスを三度知らないと言ったとき、イエスは振り向いてペテロを見つめます。そのときどんな表情だったのか。そして三つ目。イエスは剣を買いなさいと言っていて、実際に弟子たちが剣を使おうとしたら「やめなさい」と言って止めた。それはなぜか。ともに見てまいります。

## 1 暗闇の力

### 1) ユダが裏切る動機

そこで一つ目。なぜユダはイエスを裏切ろうとしたのか。話しは少し前に戻って、マリアという女性がたナルドの香油の壺を割ってイエスの足に塗り、髪の毛でぬぐったときのことです。そのあたりのことはヨハネの福音書12章5～7節にくわしい。ユダはその時こう言った。「『どうして、この香油を三百デナリで売って、貧しい人々に施さなかったのか。』彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼が盗人で、金入れを預かりながら、そこに入っているものを盗んでいたからであった。イエスはこう言われた。『そのままさせておきなさい。マリアは、わたしの葬りの日のために、それを取っておいたのです。』」

ユダは、だれもが否定できない正しいことを言ってマリアを厳しく責めます。イエスも自分の味方をしれくれるだろうとの思惑もありました。自分の罪を隠すために、わざと正しいことを強く主張する。いかにもありそうなことです。ユダはイエスが味方してくれると期待した。ところがイエスはマリ

アの側につく。それを見てユダはイエスを裏切る決心をします。なぜか。イエスのことばがユダの隠していた罪に突き刺さってくる。それが苦しい。でも自分ではどうすることもできません。悔い改めるといふ道があったけれど、それはしない。その代わりに、イエスを祭司長たちに売る。そうすれば自分の罪をごまかすことができるし、お金も入る。それでイエスを裏切っていきます。

### 2) 剣

こうしてユダは、イエスの居場所を教えるために群衆の先頭に立ってやってきます。弟子たちはこれを見て、イエスが言っていたことを思いだす。「上着を売って剣を買いなさい。」そうだ、いまこそこの剣を使うべき時である。それで大祭司のしもべに切りつけていった。ところがイエスは「やめなさい。そこまでにしなさい」と言って止め、なんの抵抗もせずに群衆の手にかかって連れて行かれていく。弟子たちは、イエスは驚くような奇跡を起こして敵を退けるはずだと期待していたのです。ところがイエスは急に何もできなくなり、一人のどこにでもいるような弱々しい人間になってしまった。これを見た弟子たちは、急に恐ろしくなって逃げ出してしまいます。このことについてはまた後で触れます。

## 2 ペテロ

### 1) 三度否定する

このとき、ペテロ一人がなんとか踏ん張って、捕まえられたイエスの後を闇夜に紛れながらついていく。ついていってどうしようとしたのか。一人でイエスを助け出すことはできません。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと覚悟はできております」と言ったくらいです。そのときは大祭司たちの前に名乗り出て、お縄を頂戴し、イエスと一緒に死んでもかまわない、本当にそう思っていた。それで火にあたりながら名乗り出る機会を見計らっていた時、突然すぐ隣にいた女が「この人も、イエスと一緒にいました」と言って騒ぎ出す。予想外の出来事にペテロはびっくりして、思わず「そうじゃない」と否定してしまう。こうしてペテロは三度イエスを知らないと言ってしまった。これが今日の二つ目のポイントです。

## 2) 肉は弱いのです

皆さんどう思いますか。イエスから言われていたのですよ。「あなたは三度わたしを知らないと言います。」そのときペテロは「絶対にそんなことはしない」という自信があった。ところがこんな結果になってしまった。ペテロは特別に意志が弱くて、平気で嘘をつく人だったのか。そんなことはない。ではどうしてこんなことになったのか。マルコ14章38節にこうあります。「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」ペテロは霊においては燃えていた。けれども、自分が殺されるかもしれないと思った時、突然恐怖心が湧いてくる。この恐怖心は、からだの奥深いところから湧いてくる感情で、頭でコントロールすることはできない。どれほど難しいか。イエスがゲッセマネの祈りの中で教えている。「父よ。みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。」主ご自身が、人間の肉体がいかに弱いものであるかを味わってくださいました。

## 3) イエスは振り向いて見つめられた

そんなペテロをイエスはどうされたか。イエスは、ペテロがしていることの一部始終を背中で見えておられます。ペテロが三度目にイエスを否定したのに合わせるかのように聞こえてきた鶏の鳴く声を合図に、イエスは振り向いてペテロを見つめます。

ここで考えましょう。イエスはどんな表情でペテロを見つめたのか。「一番弟子のおまえまでわたしを見捨てるのか。」厳しく責めるような表情だったのか。それとも、「なんとか頑張れるかと期待したけれど、結局あなたも弱い人間だったのか。」蔑むような冷たい視線だったのか。おそらく人によって様々な感じ方があるでしょう。では実際はどうだったのか。聖書に書かれていません。私たちが自分で答えを見つなければなりません。

## 3 イエス

### 1) いつくしむ

最初イエスから「あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われたとき、「まさかそんなこと絶対にするはずない」と自信があった。ところが気がついたら言われたとおりのことをやってしまった。情けないやら、悲しいやらで泣きながら自分の頭を何度もたたいた。

私たちも似たような経験をします。子どものとき親から叱られました。「だから言ったとおりで

しょう。何度言ってもわからないんだから。」大人になってからは上司に叱られる。「こうなるから気をつけろと言ってたのに、何度言ったらわかるんだ。」そういう経験ばかりしているので、イエスがペテロを振り向いて見つめられたと聞くと、厳しく叱るような顔だったのかとどうしても思ってしまう。

でも聖書を調べると「イエスが見つめられた」という時、「叱る」という意味は全然出て来ない。その代わりに出てくるのが「いつくしんで」ということばです。イエスを三度知らないと言ってしまったペテロをもイエスはいつくしみながら見つめておられるのではないか。

### 2) あなたの信仰がなくならないように祈りました

どうしてそう言えるのか。ペテロがこんな大失敗をする前にイエスはこう言っていたからです。32節。「わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」ペテロの信仰がなくなりかけて、イエスを三度知らないと言うことは、とっくの昔にちゃんとイエスをご存じです。ですからいまさら何か驚くことが起きたのではない。ペテロが驚いているのは、自分ではまさかそんなことはしないと思い込んでいたから。イエスにとって「まさか」とか「思ってもいなかった」というようなことは一つもない。すべて知っている。それもただ知っているというのではない。失敗してもあなたはやがて立ち直ることまで知っておられる。だから安心なさい。

ところで素朴な疑問です。どうして失敗した者が立ち直ることができるのか。こういうことでしょうか。「イエスは私たちが立ち直ることを期待している。だから私たちは例え失敗してもがんばって立ち直らなければならない。」そう思っている方は二つのことをまだ理解していません。

一つ目。ペテロがいざというときにしてはいけないような大失敗をしてしまいました。仮にがんばって立ち直ったとしても、根本の問題は解決していない。結局同じ失敗を繰り返します。自分の力では絶対に立ち直れない。それだけ私たちは弱い者だということをまず知らなければならない。

二つ目。自分の力で立ち直らなければならない方は、イエスの恵みに気がついていない。私たちは自分の力では絶対に立ち直れません。その

代わりに、イエスが祈ってくださる。だから立ち直ることができる。

こう考えたらわかりやすい。サーカスの空中ブランコをするとき、下にはセーフティネットを張っている。あれと似ている。私たちは本当は自分の力で渡れないくせに、綱渡りしようとかんばっているような者。できないのですから、いつかは綱から真っ逆さまに下に落ちる。ところがイエスは、ちゃんと下にセーフティネットを張って待ち受けてくださる。これが私たちの人生だと言うのです。

### 3) 罪人を救うために弱くなられる

では、いったいどのようにしてイエスは私たちの弱さを受けとめるのか。そして、受けとめるだけでなく立ち直らせてくださるのか。今日の箇所を見てください。イエスはなにか大きな力あるわざを行ったか。驚くような奇跡を起こして、ご自分を捕まえようとしてやって来た人たちを追い払ったか。いや、何もされない。されるがままです。すぐ次の所に出てきますが、イエスをむちでたたき、目隠しをしてからかい、ひどいことばで侮辱する。そうして無実の罪を着せられていく。にもかかわらず、なにも反論されない。イザヤ書53章2, 3節に書かれているとおりで。「彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。」

世間の目にこの男は失敗したのだと思われるような姿をとられて十字架に向かわれる。ペテロのように失敗した者を立ち直らせるために向かいます。あなたのためにわたしは喜んで十字架に向かう。いつくしみに満ちた目でイエスはペテロを見つめる。あなたはやがて立ち直ります。そのとき、あなたが失敗したことを語りなさい。そうして同じように失敗した人たちを力づけなさい。なぜ失敗した者とみられたイエスが、私たちを立ち直らせることができるのか。イエスは剣のような力を使わずに負けていく。しかしそこで終わらない。この方が死からよみがえられたからです。だから立ち直らせることができる。そのことはまたイースターの時に触れることにします。

この世は強さを誇り、成功した者をたたえ、そこにしか幸福はないと言います。しかしイエスは反対です。この方は弱い者となられ、失敗した者の姿をとられて、失敗してこの世から弾き飛ばされた者の味方となられ、立ちなる道を備えてくださいます。

この方とともに歩んでまいります。